

126.02

平成21年1月1日以後の出願の際
願書に添付した明細書の補正に係る
手続補正書の作成例（特・実）

1. 補正単位

明細書に記載した事項を補正するときは、次に掲げる単位で補正する。

- (1) 明細書の全文
- (2) 「【発明の名称】」の欄
- (3) 段落番号「【○○○○】」
- (4) 「【配列表】」の欄

2. 明細書に記載した事項の補正に係る手続補正書の作成例

- (1) 明細書を全文補正する手続補正書の作成例 P 4～5
- (2) 「【発明の名称】」の欄を補正する手続補正書の作成例 P 6
- (3) 段落番号「【○○○○】」単位で補正する手続補正書の作成例
 - ア. 段落番号「【○○○○】」の記載内容を補正する場合 P 6
 - イ. 段落番号「【○○○○】」の記載内容を削除する場合 P 7
 - ウ. 新たな文献公知発明の記載を追加する補正の場合 P 7～8
 - エ. 図の説明を補正する場合 P 8
 - オ. 新たな図の説明を追加する場合 P 9
 - カ. 図の説明を削除する場合 P 10
 - キ. 「【符号の説明】」を補正する場合 P 10
- (4) 「【配列表】」の欄を補正する手続補正書の作成例 P 11

願書に添付した明細書の例

【書類名】	明細書
【発明の名称】	○○○○○○
【技術分野】	
【0001】。
【背景技術】	
【0002】。
【先行技術文献】	
【特許文献】	
【0003】	
【特許文献1】
【特許文献2】
【発明の概要】	
【発明が解決しようとする課題】	
【0004】。
【課題を解決するための手段】	
【0005】。
【発明の効果】	
【0006】。
【図面の簡単な説明】	
【0007】	
【図1】。
【図2】。
【図3】。
【発明を実施するための形態】	
【0008】。
【実施例1】	
【0009】。
【実施例2】	
【0010】。

【0011】	
【表1】	
【0012】	
【化1】	
【産業上の利用可能性】	
【0013】。
【符号の説明】	
【0014】	
(1).....	
(2).....	
【受託番号】	
【0015】	
○○○	
△△△	
【配列表フリーテキスト】	
【0016】	
【配列表】	
.....	
.....	

2. 明細書に記載した事項の補正に係る手続補正書の作成例

(1) 明細書を全文補正する手続補正書の作成例

<p>【書類名】 手続補正書</p> <p>(略)</p> <p>【手続補正1】</p> <p>【補正対象書類名】 明細書</p> <p>【補正対象項目名】 全文</p> <p>【補正方法】 変更</p> <p>【補正の内容】</p> <p>【書類名】 明細書</p> <p>【発明の名称】 ○○○○○○</p> <p>【技術分野】</p> <p>【0001】</p> <p>.....。</p> <p>【背景技術】</p> <p>【0002】</p> <p>.....。</p> <p>【先行技術文献】</p> <p>【特許文献】</p> <p>【0003】</p> <p>【特許文献1】</p> <p>【特許文献2】</p> <p>【発明の概要】</p> <p>【発明が解決しようとする課題】</p> <p>【0004】</p> <p>.....。</p> <p>【課題を解決するための手段】</p> <p>【0005】</p> <p>.....。</p> <p>【発明の効果】</p> <p>【0006】</p> <p>.....。</p> <p>【図面の簡単な説明】</p> <p>【0007】</p> <p>【図1】.....。</p> <p>【図2】.....。</p> <p>【図3】.....。</p>

【発明を実施するための形態】	
【0008】。
【実施例1】	
【0009】。
【実施例2】	
【0010】。
【産業上の利用可能性】	
【0011】。
【符号の説明】	
【0012】	
(1)	
(2)	
【受託番号】	
【0013】	
○○○	
△△△	
【配列表フリーテキスト】	
【0014】	
【配列表】	
.....	
.....	

(注1) 明細書を補正した場合、補正により変更した個所に下線を引かなければなりません。(ただし、「【」、「】」並びに「【」、「】」を用いた見出し、段落番号、図番等は除きます。)

(注2) 「段落番号【○○○○】」を増加する若しくは減少する場合又は見出しを追加、削除若しくは変更する場合には、明細書の全文を単位として補正しなければなりません。

(2) 「【発明の名称】」の欄を補正する手続補正書の作成例

【書類名】	手続補正書
	(略)
【手続補正1】	
【補正対象書類名】	明細書
【補正対象項目名】	発明の名称
【補正方法】	変更
【補正の内容】	
	【発明の名称】○○○○○○

注

(注) 願書に添付した明細書の「【発明の名称】」の欄に発明の名称を記載していない場合は「追加」とします。

(3) 段落番号「【○○○○】」単位で補正する手続補正書の作成例
ア. 段落番号「【0002】」の記載内容を補正する場合

【書類名】	手続補正書
	(略)
【手続補正1】	
【補正対象書類名】	明細書
【補正対象項目名】	0002
【補正方法】	変更
【補正の内容】	
	【0002】。

イ. 段落番号「【0009】」の記載内容を削除する場合

【書類名】	手続補正書
(略)	
【手続補正1】	
【補正対象書類名】	明細書
【補正対象項目名】	0009
【補正方法】	削除

(注) 段落番号「【0009】」の記載内容だけでなく、段落番号を減少する場合は、2.(1)の作成例に基づいて明細書の全文を単位として補正しなければなりません。

ウ. 新たな文献公知発明の記載を追加する補正の場合

—願書に添付した明細書の例に【特許文献3】の記載を追加する場合—

【書類名】	手続補正書
(略)	
【手続補正1】	
【補正対象書類名】	明細書
【補正対象項目名】	0003
【補正方法】	変更
【補正の内容】	
【0003】	
【特許文献1】
【特許文献2】
【特許文献3】

－願書に添付した明細書の例に【非特許文献】の記載を追加する場合－

【書類名】	手続補正書
(略)	
【手続補正1】	
【補正対象書類名】	明細書
【補正対象項目名】	全文
【補正方法】	変更
【補正の内容】	
【書類名】	明細書
【発明の名称】	○○○○○○
【非特許文献】	
【0004】	
【非特許文献1】	・・・・・・・・・・

(注) 【非特許文献】の記載を新たに追加することは、見出しを追加し、段落番号の数を増加する補正となるため、2.(1)の作成例に基づいて明細書の全文を単位として補正しなければなりません。

エ. 図の説明を補正する場合

－願書に添付した明細書の例の「【図1】」の記載内容を補正する場合－

【書類名】	手続補正書
(略)	
【手続補正1】	
【補正対象書類名】	明細書
【補正対象項目名】	0007
【補正方法】	変更
【補正の内容】	
【0007】	
【図1】	(補正後の「図1」の説明を記載)
【図2】	(もとの明細書の「図2」の説明を記載)
【図3】	(もとの明細書の「図3」の説明を記載)

オ. 新たな図の説明を追加する場合
－願書に添付した明細書の例に「【図4】」の説明を追加する場合－

【書類名】 手続補正書

(略)

【手続補正1】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0007

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0007】

【図1】(もとの明細書の「図1」の説明を記載)

【図2】(もとの明細書の「図2」の説明を記載)

【図3】(もとの明細書の「図3」の説明を記載)

【図4】(追加する「図4」の説明を記載)

(注) 明細書の図の説明ごとに段落番号を付与してあり、【図4】の前に新たな段落番号を付与する場合は、段落番号を増加する補正となるため、2.(1)の作成例に基づいて明細書の全文を単位として補正しなければなりません。

－願書に添付した明細書の例の図の説明「【図1】」と「【図2】」の間に新たな図の説明を追加する場合－

【書類名】 手続補正書

(略)

【手続補正1】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0007

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0007】

【図1】(もとの明細書の「図1」の説明を記載)

【図2】(追加する「図2」の説明を記載)

【図3】(もとの明細書の「図2」の説明を記載)

【図4】(もとの明細書の「図3」の説明を記載)

(注) 明細書の図の説明ごとに段落番号を付与してあり、【図2】の前に新たな段落番号を付与する場合は、段落番号を増加する補正となるため、2.(1)の作成例に基づいて明細書の全文を単位として補正しなければなりません。

カ. 図の説明を削除する場合

一願書に添付した明細書の例の図の説明「【図2】」を削除する補正一

<p>【書類名】 手続補正書</p> <p>(略)</p> <p>【手続補正1】</p> <p>【補正対象書類名】 明細書</p> <p>【補正対象項目名】 0007</p> <p>【補正方法】 変更</p> <p>【補正の内容】</p> <p>【0007】</p> <p>【図1】(もとの明細書の「図1」の説明を記載)</p> <p>【図2】(もとの明細書の「図3」の説明を記載)</p>

(注) 明細書の図の説明ごとに段落番号を付与してあり、段落番号を減少する補正をするとき又は全図面の削除に伴い図の説明全てを削除するときは2.(1)の作成例に基づいて明細書の全文を単位として補正しなければなりません。

キ. 「【符号の説明】」を補正する場合

<p>【書類名】 手続補正書</p> <p>(略)</p> <p>【手続補正1】</p> <p>【補正対象書類名】 明細書</p> <p>【補正対象項目名】 0014</p> <p>【補正方法】 変更</p> <p>【補正の内容】</p> <p>【0014】</p> <p>(1)</p> <p>(2)</p>

(4) 「【配列表】」の欄を補正する手続補正書の作成例

【書類名】	手続補正書
	(略)
【手続補正1】	
【補正対象書類名】	明細書
【補正対象項目名】	配列表
【補正方法】	変更
【補正の内容】	
【配列表】	
.....	
.....	
.....	

注

(注) 願書に添付した明細書に「【配列表】」の記載がない場合は、「追加」とします。

(改訂平成23・11)